

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000374		
法人名	医療法人社団 松島内科		
事業所名	グループホーム みのり 2F		
所在地	小樽市緑1丁目16番14号		
自己評価作成日	平成31年2月14日	評価結果市町村受理日	平成31年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関であり、入居者様の状態に変化があった場合には適切に医療が受けられる。
また、医療連携加算を算定しており、看護師に状態を継続的にみてもらうことで細かな対応が出来るようにしており、看取り介護加算も算定しているためご本人・家族様の希望があれば最後の住まいとして看取りを行う事も可能である。
また近隣のマッサージボランティアや薬局、商店の活用等あり、入居者様が地域の一員として暮らしていけるよう努め、避難訓練や運営推進会議等で行政機関・消防機関や地域住民・町内会の皆様にも参加を促し、ホーム内の事をよく知っていただきながら、災害の際相互に協力が出来るように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0172000374-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成31年3月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり」は開設して18年目を迎え、地域とは馴染みの関係が構築されており、町内会行事には積極的に参加をしている。
運営推進会議には、町内会役員や地域住民2名の参加があり、質向上に繋がる意見を得ている。
母体が医療機関であり、医療と介護の両面から利用者を支える取り組みは、利用者や家族のみならず職員の安心にも繋がっている。
誕生日はケーキでお祝いをし、他のユニットにはプリン等が配られるなど、利用者主体の支援に努めている。
職員は、利用者を身内に置き換えて、自分がされて嫌なことはしないなど、ゆったりとした対応に努めている事業所である

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念や事業所の理念を職員の目に着く所に掲示し、共有し実践に繋げられるよう努めている。	開設時に在籍していた職員によって事業所理念が策定され、入社時には、理念のもつ意義を説明している。地域に開かれたホームの役割や利用者主体のケアを念頭に、日々の業務に勤しんでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の商店・薬局・弁当屋の利用。又、マツサージのボランティア等を活用し日常的に交流が出来るように努めている。	住吉神社祭に合せて、事業所も夏祭りを行っている。町内会への手伝いと神輿の休憩所として駐車場を開放し、利用者は玄関前のベンチで出迎えている。鈴を頂き、お礼に菓子や飲み物を手渡している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の祭等に協力し、地域貢献に努めている。運営推進会議等で認知症の理解や支援の方法を地域の方々に活かせるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、活動状況の報告を行っている。意見や要望を伺いサービス向上に活かせるように努めている。	会議は年4回開催され、複数の町内会関係者、家族、行政の出席を得ている。利用者の状況や事故、ヒヤリハット等の現況報告後に、出席者から大学生のボランティア活動の情報等が得られ、検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内・資料を提出し意見を伺いながら協力関係を築けるように努めている。又、毎月利用状況調査票を送付し情報提供に努めている。	管理者は、担当者に事故報告の経緯を説明し、助言を受けている。生活支援課とは、都度報告や確認等で情報交換があり、利用者の安心に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング、フロアミーティングを定期的に行っている。又、身体拘束マニュアルをいつでも閲覧でき実践に取り組むよう努めている。	指針を整備し、全体ミーティング時に身体拘束適正化委員会と研修会を開き、グレーゾーンを含め具体的な行為とその弊害を学んでいる。外部研修や勉強会で理解を深め、適切なケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	可能な限り虐待防止等の研修に参加し、内部研修でも取り組むように努めている。又、各フロアにマニュアルを設置し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等学ぶ機会が少ないが研修等に参加するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明時、ご家族様に十分な説明を行い、理解・納得していただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに苦情相談窓口・ご意見箱を設置し、ご家族様に定期的なみのり通信を送付。家族様来訪時コミュニケーションを図れるよう努めている。	家族に年4回の事業所便りや、来訪時、電話等で利用者の日常を報告している。家族の意見は、指導的立場の職員間で検討し、改善策を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロアミーティング・全体ミーティングを行い職員から意見を聞いている。提案があった際は代表者会議にて話し、反映出来るように努めている。	職員は、事業所便り以外は各業務を全員で担当し、資質向上に繋げている。法人職員が事業所職員を兼務しており、相談しやすい環境にある。メンテナンスの提案等は、法人会議で協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月2回以上各部署の管理者と介護部長が集まり、勤務状態や職場環境を整備し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内があった場合、職員に通知し参加を促している。各部署に教育委員を設け担当者により内部研修のテーマの企画・実践が出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修や新年会等に参加しネットワーク作りやサービスの質を向上出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	サービス利用の段階で面談を行い、本人が困っている事、不安、要望に耳を傾けながら笑顔でわかりやすい言葉で安心していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	具体的にどのような援助が必要なのか話しを聴き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用開始段階で本人と家族が「その時」まず何を必要とされているか見極めサービス利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人は暮らしを共にする者同士の関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしながら家族と共に本人を支えて行く関係を築いていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が家族の同意で自宅へ外出したり美容室へ外出され、関係が途切れないよう支援するよう努めている	馴染みの人の面会時や、電話の取り次ぎは、快く対応している。利用者から要望は出ないが、近辺の朝里ダムや小樽運河、水族館等にドライブで訪れている。墓参など、家族の支援も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人一人が孤立しない様、利用者同士が関わり合い、支え合える様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に希望や意向の確認を行っている。意向が確認出来ない場合日々の様子や状態をみて本人本位になるよう検討している。	利用者の要望は、会話や家族に確認するなど、関わりの中から把握している。状況により、表情や動作、基本情報など個別の記録を参考に職員間で検討し、思いに応えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報確認及び本人・家族に聞き取りながら把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにケアプランの評価を行ないカンファレンスを開き話し合っている。本人の様子観察ご本人・家族からの話し合いなど行ない現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	定期見直しや急変時の介護計画作成の際は、予め把握していた利用者や家族の要望を踏まえ、医療関係者の意見を参考にして全職員で検討している。介護計画と介護記録は連動しており、実践が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して既存のサービスとらわれず柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し個々に合わせ地域に貢献し安全で豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医等本人およびご家族の希望を大切にしている。医療機関と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	16名の利用者は、月2回往診の協力医を主治医としている。入居前のかかりつけ医への受診は家族が対応し、急変時や他科受診は、家族の協力を得ながら職員が同行している。週2回の看護職員の健康チェックも行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常生活の中で変化あった場合、医師・看護師に相談し適切な診察や、受診が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院・退院の際医療機関と相互に情報共有し、安心して治療が出来るように努めている。また、定期的に面会し早期に退院できる様努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい	重度化した場合における指針を策定しており、契約時に説明し、納得していただけるよう努めている。	入居時に重度化や終末期に於ける指針を説明し、同意を得ている。看取りへの体制を整備しているが、段階的に主治医、家族と話し合った結果、入院となり看取りケアには至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を作成し事故が起こった際には適切な対応が出来るよう努めている。また内部研修等を開催すし実践力を身につけられる様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や外部の防災研修を行っている。防災マニュアル・防災自己点検を作成し地域住民、町内会に参加を促し、協力体制を築ける様努めている。	年2回、併設の事業所と合同で、日中想定避難訓練と夜間に地震後の火災発生想定訓練を計画し、順次実践している。訓練後に、表出した課題に沿って訓練をやり直している。地域住民に参加を要請している。	今後、考えられる風水害や、排泄時などケア場面での対応を検討の上、自主訓練を行い職員がスムーズに利用者や避難できる態勢作りに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際や身体介護時等プライバシーを配慮し適切な言葉遣いや対応を心掛けている。	職員は、利用者を敬う気持ちを崩さず支援に当たっている。呼称は基本的に名字だが、利用者や家族の希望する呼び名を受け入れている。イニシャルを使い、個人関連の書類も適正に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺い、希望に沿えるように配慮している。自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく個々に合わせ暮らしやすいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせ起床時の整容、入浴後の身だしなみ等一人ひとり合わせられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせ好き嫌いを可能な限り把握し食事を提供できるように努めている。食器拭きやタオルたたみも一緒に行なえる様努めている。	献立は系列3事業所合同だが、利用者の要望や職員の提案により、菜園で採れたピーマン、トマトなども活用しながらアレンジしている。ホットプレートでお好み焼きを作ったり、彼岸にはおはぎを作り、誕生日にはケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は1日を通じ記録し把握するよう努めている。食事については個々の能力や希望に合わせて対応するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせ、毎食後、口腔ケアを促し、見守り、声かけ介助等行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけトイレ誘導やパット確認等行い、不快な思いをしないようにしている。	利用者の要望や職員の提案で、夜間にポータブルトイレを使用する以外はトイレでの排泄を基本とし、見守り、誘導を行っている。自力排泄や布下着を着用する利用者もあり、職員の支援が続いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた食事形態での提供や個々の水分量を把握。昼食前の軽い体操等行ない便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週に2回の入浴日だが本人の希望があった場合や入居者様の状態、行事等の際には柔軟に対応が出来るよう努めている。	入浴は、週2回を基本としているが、回数や曜日、同性介助等の要望を受け入れている。状況により、他のユニットでの入浴やシャワー浴、清拭もあるが、入浴剤入りの浴槽でリラックスできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の希望にそった支援をしている。休みたい時休んで頂けるよう支援するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様ひとりひとりにそった支援をしている。薬内容を理解するように努めている。また、常に薬情をわかりやすい場所に設置し、いつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が楽しんでくれるようなレクリエーションを行うよう努めている。また、食器拭きや洗濯物をたたむ等個々に合わせ役割を持っていただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にホーム前まで戸外にでたりドライブに行ったりするよう努めている。また、ご家族様の協力もあり他科受診等、継続出来るよう支援に努めている	玄関のベンチで日光浴やプランターの水遣り、窓を開けて外気に触れている。周辺の住宅や公園での花見、朝里ダムの紅葉観賞、水族館などにドライブで訪れている。家族の外出支援も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせた対応をするよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合及び電話があった際はその都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは季節の貼り絵等、レクリエーションで入居者様とスタッフが一緒に行ったり、行事をおこなっている。共有空間は、入居者様が不快に感じない様、清潔感・生活感・季節感を常に心掛けている。	共用空間は、程よいスペースがあり、採光、温湿度、清掃に配慮がある。廊下にソファを置き、一人になれる空間を用意している。紙細工のお雛様や桜満開の作品を利用者と製作するなど、慣習や季節感を大事にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にて気の合った者同士が会話できるような場所を提供し楽しく過ごせるよう配慮している。家具等の配置においてもゆっくり過ごせられるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族様と相談しながら、本人が使用していた思い出のある物等使用している。配置もご本人様気持ち良く過ごせるよう配慮している。	居室には、ベット、クローゼット、洗面台、温湿度計を設置している。利用者や家族が用意した一面鏡や仏壇、小型テーブル等を動線に配慮して置き、折り紙細工や写真を飾るなど、安心して過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には表札を付け可能な限り分かりやすいように努めている。また、洗濯物を干したり、たたんでもらう等自立した生活が継続して支援できる様努めている。		